

# 長畝ふるさと通信

【2018年10月号】

## ■ トキ放鳥10周年記念式典、野生下生息数は350羽に

10月14日、トキ放鳥10周年記念式典が開催されました。平成20年にトキの野生放鳥をスタートさせてから10年が経過しました。平成20年9月25日、秋篠宮ご夫妻も出席し数千人もの観客に見守られながら大空に放たれたトキの姿を今でもはっきりと覚えています(前日、関係者と夜遅くまでどんちゃん騒ぎをして完全な二日酔いでしたが・・・)。平成28年には42年ぶりに野生下生まれ同士のペアからヒナが誕生し、巣立ちを迎えるなどトキの野生復帰は確実に進んでいます。

式典には秋篠宮家の御長女、眞子さま(正式には眞子内親王殿下とおっしゃるそうで)もご臨席され、歌手の加藤登紀子さんが「トキの未来を語る」記念フォーラムで会場を盛り上げました。野生下のトキの生息数は350羽にもなり、現在の生存率と繁殖成功率を維持すればあと10年足らずで1000羽まで増えるそうです(佐渡の人口はどんどん減るのに複雑な心境ですが・・・)。来年夏にはトキ観察施設「トキのテラス(仮称)」もオープンする予定だとか。みなさんも是非佐渡へ「普通にいる鳥となったトキ」を見に来てはいかがでしょうか。



右の写真はトキと佐渡の関係をムリムリにおけさ柿で表現してみました。真ん中がトキでその周りに環境省や行政や大学やボランティアや島民やNPOや百姓たちがちよとずつ手を出したり、口を出したりしながら遠からず近すぎずトキを見守っているの図です。これからもこんな感じでやっていけばいいんじゃないかと個人的には考えるわけです。

## ■ 稲刈り後にはこんな仕事をしています



佐渡の資源を有効活用しようと、3年前からもみ殻堆肥を作って田んぼに散布しています。お米の収量的にはなかなか実績が上がりませんが、使い道のないもみ殻を何とか生かしたいと今年も実証圃を設けて取り組んでいます。

今年は全国的に異常気象からおコメが不作だったと聞いています。佐渡も例外ではなくJAの集荷実績は計画対比80%を下回るそうで、大変な事態を迎えています。まずは気候変動にも負けないように土づくりからやり直しですな。